

第3学年A組 家庭科学習指導案

1 題材 「わたしブランド～帽子に値段をつけよう～」

2 指導観

○ 食器や衣類、さまざまな日用品に至るまでのあらゆる商品が安価で売られ、コンビニエンスストアや通信販売など購入の方法も多岐にわたり、消費者の感覚も「ほしいものはすぐ手に入る」が当たり前になっている。これら大量生産・大量消費の背景として生産技術の進歩、流通システムの発達の果たした役割は大きい。しかしその反面、労働に対する価値は薄れ、日常生活における個々の生産技能も低下し、その結果として安易な購入と後々の大量廃棄という問題を生み出した。家庭生活は、多くの物資を消費しながら成り立っているという点で、家庭生活と消費生活は切り離すことができないと同時に、ゴミの問題を含む環境問題についても家庭生活と密接な関係があると言える。

本題材では、家庭生活における消費の重要性に気付き、主体的に生活を営む態度を養うとともに、消費者として自ら果たす役割を自覚し、環境に配慮した生活の工夫ができるようにすることをねらいとしている。学習内容としては、商品の選択・購入、販売方法と支払い方法、消費者の権利とトラブル、グリーン・コンシューマーなどがある。このような学習を通して、消費生活への関心を高め、主体的に消費生活に取り組み、よりよい家庭生活の実現のために自立する生徒の育成をめざしている。このことは情報化社会といわれる現代社会において、多くの情報の中から適切な情報が収集され、選択・活用に生かされ、個人の生活の質の向上と、環境にやさしい社会の実現のためにも意義のあることと考える。

○ 生徒は中学校1・2年のときに、健康を考えた衣食住の生活を送れるように、食生活では食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択することや、衣生活では日常着の計画的な活用と衣服材料に応じた日常着の適切な手入れ、住生活では快適な住まい方・室内気候の調節などを学んできている。

事前のアンケート結果では、服を購入する際「サイズ」を気にする生徒の割合は95%、ついで「好み」が94%、「見た目」が92%であるのに対し、「布の種類」は38%、「作った会社」は29%となった。また、お菓子の購入の際は「おいしさ」が96%と気にする割合が高く、ついで「値段が安い」が76%、「分量が多い」が68%となり、「健康によい」「買う店」「見た目」「CMでよく知っている」「太りにくい」「おまけがついている」「表示やマーク」について気にする生徒の割合は半数以下と軒並み低かった。これらの結果から生徒たちは衣服において、自己表現に関することについては関心が高く、ファッション性を重視している一方、素材やメーカーなどの表示はあまり気にしないで購入する傾向があった。また、お菓子に関しては「安くておいしい物をたくさん」と食欲を満たすことが優先され、やはり「表示やマーク」は購入する際、充分活用されていないことが実態として伺える。

○ 指導にあたっては、家庭生活の中の身近な消費生活を事例として取り上げ、生活をよりよくしようとする自覚をもって商品を選択し、その際、適切な意思決定を行うようさせたい。そこでまず、家庭生活が多くの商品を選択、購入したり活用したりすることで成り立っていることを確認させ、商品を物資とサービスに分類しそれぞれの特徴を理解させる。ここでは、生活情報の活用を考えさせ、身近な販売方法と支払いの特徴と利点や問題点を考えさせる。そして、消費者の基本的な権利と、消費者を保護するための法律や制度の趣旨を理解させ、消費生活上のトラブルの解決方法を知らせる。次に、既製品の帽子の値段を比較し、材料費や人件費を考えさせる。手作りの帽子の値段については材料費と技術をどのくらい評価できるか考えさせ、帽子の値段をはじめに決めてから製作に入らせる。さらに、製作を通して製作技術を高めさせ、自己評価をしながら製作に要した時間とできあがった作品の仕上がりを確認させ、改めて労働に対する評価と、製作しているときの気持ちをどのように値段に反映させるかを各自で検討してから意思決定をさせる。最後に、物を廃棄するまでが消費者の責任であり、環境に配慮した消費生活の工夫が実践できるようグリーンコンシューマーについても考えさせていく。

3 目標

- 商品購入の際の支払い方法と、身近な販売方法の特徴や利点と問題点に関心をもとうとしている。
- 商品の選択、購入において、収集した情報を整理し検討しながら意思決定を行うことができる。
- 生活に必要な物資・サービスの情報を収集し、適切な選択、購入及び活用ができる。
- 作業能率や帽子の値段を考えながら、帽子を作ることができる。
- 消費者の基本的な権利と消費者保護の趣旨を理解し、消費生活上のトラブルの解決について説明することができる。

4 計 画 (12時間)

第1次	家庭生活の中の消費を考える -----	2
1.	商品の選択・購入の際の生活情報の生かし方と必要性について考える -----	(0.5)
	・生活情報, 品質, 機能, 表示, 保証, 価格	
	・物資とサービス	
2.	身近な販売方法と支払い方法の特徴を知る -----	(0.5)
	・店舗販売と無店舗販売	
	・即時払い, 前払い, 後払い	
3.	消費者の基本的な権利と消費者の保護を知る -----	(1)
	・消費者基本法	
	・製造物責任法	
	・クーリング・オフ制度	
第2次	商品(帽子)の値段について考える -----	1 (本時)
	・既製品の値段	
	・手作りの値段	
	・製作者の気持ち, 手作りの価値	
第3次	「わたしブランドの帽子」を作る -----	8
1.	型紙選びと裁断 -----	(1)
	・型紙の選択	
	・裁断, しるしつけ	
2.	本縫い -----	(6)
	・しつけ	
	・ミシン縫い	
	・仕上げ	
3.	帽子の値段を決める -----	(1)
	・材料費, 手間賃	
	・自己評価	
第4次	環境を考えた家庭生活を工夫する -----	1
	・識別表示, マーク	
	・グリーン・コンシューマー	
	・家庭実践 -----	課外

5 本時 平成18年9月27日(水) 第5校時 計画第2次 1/1 3年A組教室にて

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、家庭生活のなかの消費について考え、物資とサービスの特徴、身近な販売方法や支払い、消費者の基本的な権利と消費者保護の法律や制度について学習してきている。

そこで本時は「わたしブランドの帽子」の値段を考える意思決定の場面を設定し、商品の入手方法を確認し、商品の値段を決める要素を考慮しながら手作りの帽子の値段を考えることをねらいとする。そのためにまず、手作りのベビードレスを提示し、本時のめあてを確認させる。次に、入手方法について考えさせる。ここでは値段、使用目的などを比較・検討し商品を選択、入手方法を確認し、「購入」と「レンタル」の違いを比べ、それぞれの長所と短所を考えさせる。さらに、3種類の既製品の帽子と値段、それから手作りの帽子と材料費を提示し、帽子の値段を決める要素を考えさせる。ここで、家族へのプレゼントとして帽子を作ることを伝え、自分で製作する帽子の値段を考えさせる。最後に、本時のまとめを行い、次時の予告を行う。

(2) 主眼

- 「わたしブランドの帽子」の値段について考えることができる。

(3) 準備

- ①学習プリント ②製作した作品(ベビードレス他) ③帽子(3種類) ④値段の要素の割合を示す円グラフ
⑤マジック ⑥マグネット

(4) 展開

学習活動・内容	資料・教具	留意点	形態	配時
1 本時のめあてを確認する。 商品の値段について考えよう	①②	○ 制作した作品（ベビードレス、スカート帽子、日傘など）を見せ、作品に共通することとして、手作りであることに気付かせる。 ○ ベビードレス制作時のエピソードから、商品の入手方法に関心をもたせる。	一斉	5
2 商品の入手方法を考える。 ・購入とレンタルの違い	①	○ ベビードレスの入手を例にして、「購入」と「レンタル」それぞれの長所と短所を学習プリントにまとめさせる。	一斉	10
3 帽子の値段について考える。 (1) 商品の値段を決めるのに必要な要素を考える。 ・材料費 ・人件費 ・発売元（メーカー）の利潤 ・ブランド名 ・機能性（デザイン） など	①③④⑤⑥	○ ブランド品、一般品と安いもの3種類の既製品の帽子を準備しておく。 ○ 値段、素材、発売元、取り扱い絵表示、その他の帽子の特徴を提示し、値段を決める要素を班ごとに考えさせる。 ○ 値段を決める要素を発表させまとめてから、値段を決める要素の割合を班で話し合わせ、円グラフに書かせる。	一斉 ↓ 班	15
(2) 「わたしブランドの帽子」の値段を考える。 ・材料費（1,090円に統一） ・製作時間 ・製作技術 ・「わたしブランドの帽子」への気持ち など	①②	○ これから「わたしブランドの帽子」の制作に取り組むことを知らせ、手作りの値段を決める要素を考えさせる。 ○ 人件費と発売元の利潤は、「わたしブランドの帽子」では、製作時間と製作技術に置き換えられ、作品に込められた気持ちが手作りの価値であることを制作した作品を提示し気付かせる。 ○ 気持ちは、完成したときの喜びや、家族への贈り物の場合は、家族を喜ばせたい気持ちなど、人によって異なることを確認し、帽子の制作で達成したい気持ちを一人一人の価値観で意思決定させてから、値段を決める要素の割合を円グラフに書かせる。 ○ 材料費は1,090円に統一し、手作りの帽子の値段を考えさせる。	一斉 ↓ 個	15
4 本時のまとめをし、次時の学習の確認をする。		○ 次時からは、「わたしブランドの帽子」を制作し、制作後に再検討して値段を決めることを知らせ、制作への意欲をもたせる。 ○ 被服制作に必要な材料・道具について連絡する。	一斉	5

資料-31 第3学年「わたしブランド～帽子に値段をつけよう～」全体計画と要素との関連表（全12時間）
関：関心・意欲・態度 工：工夫・創造 技：生活の技能 知：知識・理解（a～mについては、P3の資料-3を参照）

段階	配時	学習活動・内容	評価規準 (評価方法)【要素】	具体的評価規準	
				十分満足できる (A)	おおむね満足できる(B)
気 付 く	2	1 商品の選択・購入の際の生活情報の生かし方と必要性について考える。 ・生活情報、品質、機能表示、保証、価格 ・物資とサービス	関：生活上の問題を解決するために、情報を収集し、活用して消費しようとしている。 (学習プリント分析) 【a,h】	・自分の家庭生活を振り返り、商品の選択・購入時の問題点に関心をもとうとしている。 ・生活上の問題を解決するために、適切に情報を収集・整理することの必要性を述べている。	
		2 身近な販売と支払い方法の特徴を知る。 ・店舗販売と無店舗販売 ・即時払い、前払い後払い	知：身近な販売と支払い方法の特徴や、利点と問題点について説明することができる。 (学習プリント分析) 【b,c,d,h】	・いろいろな販売方法と支払い方法の特徴や利点と問題点について説明し、適切な商品の選択の方法が分かる。	・いろいろな販売方法と支払い方法の特徴について説明し、商品を選択する方法が分かる。
		3 消費者の基本的な権利と消費者の保護を知る。 ・消費者基本法 製造物責任法 ・クーリング・オフ制度	知：消費者の権利、消費者保護の制度や法律を理解する。 (学習プリント分析) 【b,c,d,h】	・消費者の基本的な権利と消費者基本法、製造物責任法の趣旨を理解し、消費生活上の問題解決のためクーリングオフ制度の仕方が分かる。	・消費者基本法、製造物責任法の趣旨を理解している。
見 通 す	1	2 商品の値段を考える。 ・既製品の値段 ・手作りの値段 ・手作りの価値	工：「わたしブランドの帽子」の値段考えることができる。 (学習プリント分析) 【a,b,c,d,g,i,l,m】	・製作時間や製作技術と、手作りによって得られる気持ちを十分考慮しながら、手作り帽子の値段を決めている。	・材料費と製作時間を考え手作り帽子の値段を決めている。
さ ぐ る	7	3 「わたしブランドの帽子」を作る。 ・型紙の選択 ・裁断 ・しるしつけ ・しつけ ・ミシン縫い ・仕上げ	技：作業能率を考えながら、帽子を作ることができる。 (活動チェック・作品評価) 【a,b,c,d,e,f,k】	・製作計画にしたがって、能率よくいねいに帽子を作ることができる。	・被服用具を安全に使いながら、帽子を作ることができる。
ま と め る	1	4 製作の反省を行い、帽子の値段を決める。 ・材料費 ・製作時間 ・製作技術 ・自己評価	工：製作活動を振り返り、「わたしブランドの帽子」の値段を決めることができる。 (自己評価・学習プリント分析) 【a,b,c,d,g,i,l,m】	・製作時間や帽子作りの技能を自己評価しながら、手作りに込めた気持ちを反映させて手作り帽子の値段を決めている。	・製作時間や帽子作りの技能を自己評価しながら、手作り帽子の値段を決めている。
生 か す (課 外)	1	5 環境を考えた家庭生活について考える。 ・識別表示、マーク ・グリーン・コンシューマー	工：消費者の一人として、環境を考えた家庭生活について工夫できる。 (学習プリント分析) 【a,b,c,d,g,h,i,j,k,l,m】	・物資の選択・購入にあたり、環境に配慮しながら、消費することの重要性に気付き、ゴミを少なくする生活を工夫している。	・環境に配慮した消費生活に目を向け、ゴミを少なくする生活を工夫している。
		○家庭で実践する	関：環境を考えた家庭生活を送ろうとする。 (家庭実践レポート分析) 【a,i,j,k,l,m】	・消費生活に関心をもち、学習したことを生かし、環境を考えた家庭生活に取り組もうとしている。	